

様式1

平成28年度 学校評価表

学校教育目標		夢や目標を持ち 未来を拓く 栗原小教育の創造							
a ミッション	人権教育を根底にすえた教育活動の創造と発信	a ビジョン	○期待される学校、誇れる学校、前進する学校 ○栗原のこころ「栗原しくさ」が根付く学校	○家庭・幼・中との連携から「つながる教育」ができる学校 ○尾道の核として、情報発信できる学校					尾道市立栗原小学校

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画	責任者		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 年度達成	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価				l コメント	m 改善案
					達成値	達成値				イ	ロ	ハ			
豊かな「時間」「心」「つながり」で子供を育てる	学びを深める	人権教育を根底にすえた学力の定着<分掌連携>	家庭学習の定着	・家庭学習を意欲的に取り組み、毎日忘れずに提出できる児童の割合	90%	84%	93%	B	・低学年を中心に、通信や連絡帳で家庭との連携を図りながら、家庭学習を毎日取り組めるように働きかけた。家庭の協力が得られない児童には、放課後や休日に宿題をする時間を設定し、取り組ませた。 ・課題として、放課後に残さないことがあり、やりきらせることができなことがあった。また、休憩時間が全て宿題をやる時間となってしまう。	3			・家庭の問題であり、大変困難と思うが、連携を密にして取り組んでほしい。 ・宿題をしない子はある程度決まってくるので、休憩時間にやりきらせることで、家でする習慣が付いてくれば良い。	家庭と連絡を密に取り、家庭でしていただくこと・学校で取り組んでいくことを話し合っていく。 学年部で協力し、担任が会議等で児童を見られない場合、他クラスに集めて指導するようにする。	金子 渡瀬 藤田 雨宮 山藤 神森
			学習規律の徹底	・学習に望ましい姿勢を保持して、友達の見聞を聞いた、自己の意見を発表できたりできる児童の割合 (担当評価・児童アンケート)	90%	61%	68%	C	・全校での合い言葉「3つのひ」が統一して行われている。授業開始時には意識できていないが、授業中に姿勢が崩れてしまつて児童が見られる。45分ずつ「3つのひ」を継続するのは難しい。 ・座り方は良いが、発表するときの手の挙げ方(栗原ベージュ)ができな児童がいる。	3			・学習の振り返りは、学習効果の定着に非常に有効だと思う。是非続けてほしい。 ・自己評価が必要。取組に意義がある。 ・自分の考えを文章にすることは重要だが難しいことでもある。加筆することを続けていただき、是非子供達に力を付けてほしい。	全学級、「栗原ベージュ」「3つのひ」を学期の初めに再度確認する。何ができていたら良いのかを児童に示し、やらせきる。担任の見取り方にはばつきがあるため、見取る視点を明確化する。 読解書から自分の席で静かに10分読解する時間を必ず確保し、一日も良いスタートをのらせる。 スタンプタイムは、学年で内容を統一し、集中して10分間やりきらせる。	
			栗原しくさを基盤とした一貫指導と評価	・ヘア、グループ学習を通して、学習の振り返り、自分の考えに加筆できる児童の割合	70%	63%	90%	B	・板書に教師が書いたキーワードを加筆している児童が多く見られた。また、話し合いの中で、友達のよい考えを自分の考えに取り入れて書いている児童が見られた。加筆をするときは赤で書くことを伝えているため、加筆の習慣ができた。 ・年中・高学年ごとの加筆のさせ方や見取り方がある程度定まっていなため、妥当性のある加筆とそうでない加筆の見取りが難しい。 ・何が一日一善なのか学校全体に浸透していない。 ・一日一善の達成度に担任と児童で温度差がある。 ・児童会と連携できなかった。 ・一日一善の活動は、アピールして行う活動ではないので、担任が児童の様子を把握することが難しい。	3			低・中・高学年ごとの加筆のさせ方や定着に非常に有効と示す。(国語・社会) 授業の中で加筆させるタイミングを学年で揃える。	・各学級でクラス全員で行う一日一善の取組を決める。 ・2学期の最後には、一日一善の取組が個人で内容を決めて行う取組にする。	
	人間性を育む	共感的人間関係づくり<分掌連携>	体動かす良さを実感できる、家庭と連携した取組の推進 ・毎月強化週間を設定して実態調査をする	・強化週間において、自己目標が4日以上全ての項目で目標を達成できた児童の割合	70%	61%	87	B	・続けるには難しい自己目標を設定したのではないが、また続けることの難しさを実感したのではない。 ・自己目標としたこと、家族で楽しみながらできる体力つくりを紹介したことで、達人カードを楽しみにしていたり、意欲を高めたという様子がある。 ・外遊びは暑い時期だったのでむすかしかった。 ・外遊びが好きな児童は意欲的に毎日外で遊ぶことができている。 ・振り返りの仕方があつていたり、カードを提出しない児童がいた。	3			・達人カードの導入は具体的で大変良い。是非続けてほしい。 ・カードの作成など形にすることで理解しやすい。担当者の強い意欲と努力が素晴らしい。 ・親子のコミュニケーション促進として、一緒に体動かす試みは素晴らしいと思う。	・強化週間は毎月設定し、取組を積み上げる。 ・振り返りがしやすいように達人カードを改善し、振り返りの仕方校内で再度確認する。特に目標設定の時間を十分に確保し、達成できそうな目標を設定できるようにすると共に、各クラスで児童の振り返りを確実にさせる。 ・個別の取組を行う。 ・合同体育で、体力つくり運動の紹介を継続する。 ・「元気の達人通信」を2回以上発行し、家庭との共通理解を図る。 ・外遊びは、天候によってカウントしない日を設けるようにする。 ・体育委員会児童が外遊びを呼びかけるように仕組む。	
				・立ち止まって、相手の目を見て挨拶のできる児童の割合 (担当評価・児童アンケート)	90%	78%	87%	B	・児童の自己肯定感が高いことが分かった。 ・あいさつとして求めるレベルが担任と児童で違いがある。 ・児童が進んでいない。 ・担任は、担任にあいさつするかしないかの評価になっている。 ・あいさつすることの価値付けができていない。	3			・立ち止まって相手の目を見てあいさつする習慣を身につけておくことは大切である。是非継続を。 ・価値付けこそが子供達の心に繋がる。是非推進してほしい。 ・挨拶の重要性を理解させて、定着してほしい。	・あいさつの必要性を考えるソーシャルスキルトレーニングを各学年部で話し合つて、各学級で行う。 ・あいさつの大切さがわかる絵本を読むなど、あいさつについて考える時間を各学年部で話し合つて、各学級で行う。 ・教員が、さらに率先してあいさつをしていく。	
				・学級実態把握をし、構成的グループエンカウンターを実施後、「アセス」の「友人サポート」の項目において、満足度が向上した児童の割合。	50%					・アセスの結果について「友人サポート」の項目の数が高く、人間関係が安定している児童が多いことが分かった。しかし、目に見えづらく人間関係が築けていない児童も見られる。 ・第1回アセスの「友人サポート」の評価が高かったため、目標値を50%に変更する。				・夏季休業中に、アセスの活用と構成的グループエンカウンターとの併用を企画している。 ・2学期には更に学級や児童の実態に合った取組を継続していく。	
・児童が主体的にかかわる生徒指導の取組を児童会活動を中心に月1回以上の実施。 <小中合同目標>	100%	100%	100%	A	・それぞれの学年やクラスで連携しながら毎月実施することができている。 ・学校全体では、1年生を迎える会や地区児童会、たてわり集会などと、児童会が主体となって実施した活動が少ない。 ・ふり返しを実施し、それを生かした実践ができていない。	3			・児童会が主体となって、学校全体で活動する場(児童会まつり等)を設定し、取組を進める。 ・学校全体で活動した後は振り返りを行い、次の活動に生かしていく。						

【自己評価 評価】
 A: 100% (目標達成)
 B: 80% ≤ (ほぼ達成) < 100
 C: 60% ≤ (もう少し) < 80
 D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: わからない。